

新型コロナウイルス感染症対応について

令和2年11月25日

高等学校課

この度のコロナ禍でオンライン学習の急速な導入など、教育活動に大きな変化が生じました。今後のコロナへの対応や将来のコロナ後のための準備などについて議論をお願いします。

1 新型コロナウイルス感染症の対応について

(1) これまでの取組

学校の規模等により対応は異なるものの主に以下のような取組を実践しているところ。

ア 学校生活

- 臨時休業時にはオンライン等により各生徒の健康状況を把握。現在は登校時の検温など健康観察の実施。
- 手指消毒、マスク着用の徹底など各クラス保健委員を通じた「新しい生活様式」の生徒全体への普及啓発。
- 各教室、職員室、受話器、パソコン等の日々の消毒作業のほか定期的な換気の実施。
- 密にならない教室、自習室、食堂の座席配置の配慮や衝立板の設置。
- 中学生体験入学、学校祭等のイベントの期間（時間）短縮や分散実施。
- 進路講演会等のオンライン実施。

イ 学び

- 3月に各生徒のインターネット環境の調査を実施。モバイルルーター200台をレンタルし、通信環境等のない生徒に学校所有のタブレット端末と一緒に貸与し、4月の臨時休業時には学校とオンラインでの通信ができるよう環境を整備。また、プラットフォームとしてGoogleのG suite for Education（以下「G suite」という。）を全校の教員及び生徒に導入。
- 4月の臨時休業時には、上述の通信環境を活用し、オンラインによるライブ（同時双方向）授業の実施、課題のやりとりやYouTube等の講義動画の視聴指示、教員自作の授業録画の配信などを実施。
- 臨時休業後の分散登校等の時期には、クラスを分割し、一方の教室の授業の様子をもう一方の教室で視聴・発言できるようなオンライン授業等を実施。
- 現状では、アプリ等を活用し、生徒の学習の理解度・進捗の把握のほか、課題のやりとりなどに活用。

(2) 浮上した課題

- 感染拡大を防止するため各種文化・スポーツの競技大会の中止。
- 地域での探究活動など校外での活動が制限される。
- このたびのコロナ禍をきっかけに、オンライン授業等の導入が進んだ一方、その活用に教員が習熟しておらず、学校により生徒の学習保障に関する対応に異なりが生じた。

(3) 今後の対応・見通し

- 競技種目別の県独自の競技大会の開催やそれらをメディアで発信。
- オンライン授業に積極的に取り組む学校の状況を県教育委員会のYouTubeに掲載し、他校の参考とした。
- 教育委員会主催の教員向けのオンライン授業研修を実施したほか、各校の情報化推進リーダーを対象とした研修で核となる人材を育成し、その者を中心に校内研修を実施するなどして、教員全体のオンライン授業を含むICT活用に関するレベルの底上げを進めていく予定。

2 学びの保障について（次の波への備え）

- 再度の臨時休業に備え、各校が自ら選択したオンライン教材（アプリ）を新たに導入。
- 校務パソコンとは別に、オンライン授業等での活用を目的とした教員用パソコンの各校導入。
- 各校におけるオンライン授業の実践に係る校内研修会の開催。
- G suite の機能を活用したオンラインによるライブ授業の実施（臨時休業版の時間割による）、課題のやりとりや教員自作の授業録画の配信、確認テストの実施、データの共有機能を使用した生徒の共同学習などのほか、スタディサプリなど民間の講義動画の視聴やA Iドリル Qubena の活用。
- また、G suite や各種オンライン教材が有する機能で生徒の学習状況や理解度などを分析し、個々の生徒に合った個別最適の学習を提供。
- インターネット環境がない家庭に貸与するためのモバイルルーターの確保（現在400台を整備、各校に配布している。）。

3 新型コロナウイルス感染症の影響で中止・延期になった事業の代替措置

（1）コロナに打ち勝て！わかとり夢の特別大会支援事業

新型コロナウイルスの影響により中止となった高等学校の各種スポーツ・文化大会の代替として、高校生の部活動での挑戦や鍛錬の成果を披露する舞台として開催する本県独自の大会を支援。

- ・県高体連主催のわかとり夢の特別大会（26競技実施、7競技等開催断念）を、6月7日（自転車競技（トラック））～9月6日（ヨット競技）までの期間で開催（全国で一番早い開催）
- ・県高野連主催の夢のわかとり特別大会（硬式・軟式）を、7月11日～7月27日の内9日間21試合で硬式野球、7月11日（土）・12日（日）の2日間5試合で軟式野球を開催。
- ・県高体連主催のわかとり夢の特別大会のインターネット等による配信を、6競技で実施（サッカー、陸上、水泳、ソフトボール、自転車、フェンシング）
- ・県高野連主催のわかとり夢の特別大会（硬式野球）について、準決勝までの全試合をケーブルテレビで放送、準決勝・決勝をNHKで放送。
- ・県高文連主催のわかとり夢の特別大会では、6部門（演劇、合唱、郷土芸能、放送、囲碁、将棋）を7月12日～10月25日にかけて開催。無観客で行う郷土芸能の部門発表会をインターネットでライブ配信。
- ・Web開催となる全国高総文祭に参加するため、8部門（合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド、弁論）が動画撮影。

（2）令和2年度高等学校体験入学・授業参観等の8月中の開催中止に伴う代替実施

令和2年10月10日（土）から12日（月）の3日間に、各校において可能な範囲で代替実施することとした。

（3）県内等修学旅行支援事業

新型コロナウイルスの影響により、県立学校（高校、特別支援学校）が修学旅行等を県内宿泊又は県内や近県日帰りで実施する場合の費用について支援することで、生徒がふるさとについて学ぶ機会を創出し、地域への愛着を育むことを目的に実施。

【補助対象】

新型コロナウイルスの影響により、修学旅行を県内宿泊等（※）に変更した場合の旅行費用（他の補助金等を活用した額を除く）

（※）県内での宿泊、日帰りほか、感染リスクの少ない近県での日帰りも含む。

【宿 泊】生徒1人あたり1泊5千円を上限（最大2泊分まで）

【日帰り】生徒1人あたり3千円



学校の適正な規模と配置について

令和2年11月25日
高等学校課

今後も続く生徒減少の中で充実した教育活動が行われるための適正な学校の規模について、学校毎の学習内容（学科等）や地理的な環境（市部と中山間地域）等を踏まえた観点で議論をお願いします。

1 現行の方針

(1) 学校の規模について

現行の「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針[平成31年度～平成37年度]」では、学校の平均的な学級数が減少している状況は把握しつつ、生徒の多様なニーズに応え、個々の能力を最大限に伸ばすための教育課程の編成や学校行事、部活動等における学校の活力維持を考えると、学校の規模は一定の範囲を標準とすることが望ましいとし、次のとおり定めている。

【標準的な学校の規模】

- 従来どおり、1学年当たり4学級から8学級程度を標準的な学校規模とする。
- 各学校の規模は、標準的な学校規模をもとに、将来見込まれる各学校への入学者数、地域の産業や人口の状況等を考慮し、総合的に勘案しながら決定していく。

(2) 生徒数の減少への対応について

平成10年度～平成16年度の期間については、大幅な生徒減少期（中学校卒業数が1,187人の減少）にあつて、県立高等学校の再編を実施するなど大規模な教育改革を実施し、標準的な学校規模を維持してきた。

また、平成17年度以降は、一連の教育改革を定着させるべく、県立高校の再編は行わず次の方針で学級減により対応してきたところ。

【生徒数の減少への対応】

- 生徒数の減少に対しては、原則として学級減で対応する。
- 県全体の学科の配置状況等を考慮しながら、複数校を対象とした再編や学級定員減等による教育の質の向上についても検討する。

2 令和8年度以降の在り方について

令和2年度から令和17年度（0歳児）の県内中学校卒業生数は、1,091人の減少が予測され、その内、県外や高専への進学者や就職者を除く県内高校への進学者は1,016人の減少と推計される。

これは、1学級40名計算で約25学級の減少が見込まれるということであり、全日制の22校を維持した場合、1学年で平均3.5学級となる。（現在102学級（平均4.6学級）→77学級（平均3.5学級））

⇒現行の標準的な学校規模（4～8学級）をも割ることから、

- ①社会資本の効率的整備（生徒数に比した維持費その他の費用対効果のある整備）
- ②教員数の減（法律に基づく国の財源措置）とそれに伴う科目の減
- ③生徒同士の切磋琢磨、多様性の確保
- ④部活動の構成員数の確保

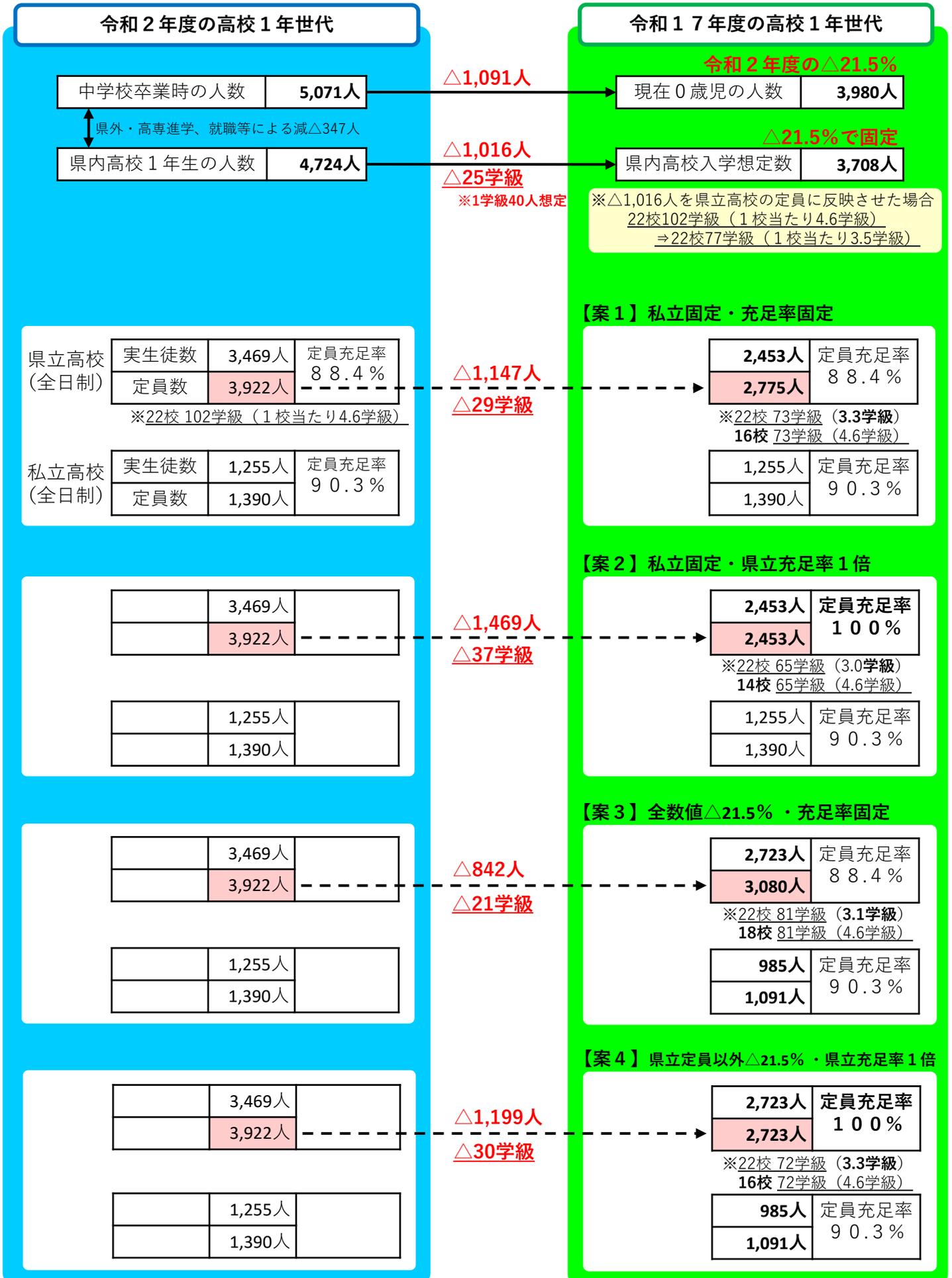
等の理由により学校の再編等の検討が必要になるものと考えられる。

3 これまでの当分科会での関連の御意見について

- 英語や探究の授業など人手が必要な科目に取り組むには1クラス40人という学級規模を縮小して、丁寧な教育を実践することもあるのではないか。
- 教育内容の保障の観点に加え、新型コロナウイルス感染症も今後も収束が見えない中、学級編成基準を独自に考えていく必要があるのではないか。
- 地域から高等学校がなくなると地域は衰退する。少人数でも学校が継続できる形を考えてもらいたい。
- 鳥取県はアドバンテージがすごくある。人口が少なくマンツーマン出来る非常にいい環境。
- 生徒減に対し、学級減ではなく少人数指導に活路を見つけ、子どもたちを伸ばしていくことが基本だと思う。
- 学校の規模がどれだけ小さくなくても無くさないことをほぼ宣言している県もある。我々委員に課されているのは令和8年以降の県立高校についてなので、どんなことがあっても、これだけの学校は無くさないという結論に導ける可能性もある。
- 鳥取県は自然に恵まれ、災害も少ない安心安全の県。積極的に県外の学生を募集し、寮の充実も図ることが魅力につながる。

4 生徒数の減少に伴う学校の規模について

(1) 令和17年度の学校規模のシミュレーション



(2) 1学年当たりの標準的な学校の規模

①今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（平成31年度～令和7年度）

4～8学級

②県立高等学校の実状

2～7学級

③他道府県の状況

北海道、茨城県、島根県、岡山県、山口県、愛媛県、沖縄県等多数	4～8学級
埼玉県、神奈川県、静岡県、滋賀県、大阪府	6～8学級
岩手県、福島県	4～6学級
三重県	3～8学級
奈良県	6～10学級
青森県	基本4学級以上／普通科重点校6学級以上／ 専門拠点校1学科4学級以上
千葉県	都市部6～8学級／郡部4～8学級
長野県	都市部普通校240～320人／都市部専門校120人以上／ 中山間地校120人以上／中山間地特定校40人
京都府	学年生全日制8学級／単位制6学級
兵庫県	普通科6～8学級／総合学科4学級以上／専門校3学級以上
広島県	基本6学級／中山間地2～6学級／中山間地外4～8学級
高知県	4学級以上
香川県	定めない

(3) クラス定員

34名	智頭農林、倉吉農業	※智頭農林は3学科くくりで68名（実質2学級規模）
38名	鳥取工業、鳥取湖陵、青谷、岩美、倉吉総合産業、米子、米子南、米子工業、 境港総合産業、日野	
40名	その他	

(4) 普通学科：専門学科：総合学科の割合（生徒数）

<H24> 54.8% : 35.5% : 9.7% ⇒ <R2> 54.9% : 36.4% : 8.7%

(5) 公立：私立の割合（定員数）

<S49> 80.0% : 20.0% ⇒ <H19> 77.7% : 22.3% ⇒ <R2> 73.7% : 26.3%

⇒ <R17> 私立高校の定員がR2と同じ場合

1の【案1】の場合 66.6% : 33.4%

1の【案2】の場合 63.8% : 36.2%

(6) 中山間地域の小規模校

	1学年当たり定員数	R2入学者数	H31入学者数	H30入学者数
青谷高校	3学級 114名	57	91	68
岩美高校	3学級 114名	58	84	51
智頭農林高校	2学級規模 68名	30	53	41
倉吉農業高校	3学級 102名	73	93	86
日野高校	2学級 76名	27	29	51

5 全日制県立高等学校の再編の経緯（平成12年度以降）

（ ）内は募集定員

平成12年度	平成13年度	平成15年度	令和4年度
鳥取東 (400)	鳥取東 (400)	鳥取東 (360)	鳥取東 (280)
鳥取西 (480)	鳥取西 (400)	鳥取西 (360)	鳥取西 (280)
鳥取商業 (320)	鳥取商業 (320)	鳥取商業 (320)	鳥取商業 (152)
鳥取工業 (228)	鳥取工業 (230)	鳥取工業 (230)	鳥取工業 (152)
鳥取西工業 (152)	鳥取湖陵 (232)	鳥取湖陵 (232)	鳥取湖陵 (190)
鳥取農業 (152)			
青谷 (160)	青谷 (160)	青谷 (160)	青谷 (114)
岩美 (160)	岩美 (160)	岩美 (160)	岩美 (114)
八頭 (360)	八頭 (360)	八頭 (320)	八頭 (240)
智頭農林 (120)	智頭農林 (120)	智頭農林 (120)	智頭農林 (68)
倉吉東 (240)	倉吉東 (240)	倉吉東 (240)	倉吉東 (200)
倉吉西 (200)	倉吉西 (200)	倉吉西 (200)	倉吉西 (120)
倉吉農業 (118)	倉吉農業 (118)	倉吉農業 (152)	倉吉農業 (102)
倉吉産業 (200)	倉吉産業 (160)	倉吉総合産業 (236)	倉吉総合産業 (152)
倉吉工業 (190)	倉吉工業 (152)		
由良育英 (200)	由良育英 (200)	鳥取中央育英 (200)	鳥取中央育英 (160)
赤碕 (120)	赤碕 (120)		
米子東 (360)	米子東 (360)	米子東 (320)	米子東 (280)
米子西 (360)	米子西 (320)	米子西 (320)	米子西 (280)
米子 (160)	米子 (160)	米子 (160)	米子 (152)
米子南商業 (200)	米子南 (校名変更) 200	米子南 (200)	米子南 (152)
米子工業 (190)	米子工業 (190)	米子工業 (190)	米子工業 (190)
淀江産業 (70)	淀江産業 (募集停止)		
境 (280)	境 (280)	境 (240)	境 (200)
境水産 (98)	境水産 (98)	境港総合技術 (232)	境港総合技術 (190)
境港工業 (152)	境港工業 (152)		
日野 (160)	日野 (160)	日野 (160)	日野 (76)

定員合計

5,830

5,492

5,112

3,844

県立全日制高等学校募集学級規模別一覧（平成24年度と令和4年度の比較）

<平成24年度>

学級数	東部地区	中部地区	西部地区	学校数
2				0
3	岩美(普通) 智頭農林(専門)	倉吉農業(専門)	日野(総合)	4
4	鳥取工業(専門) 青谷(総合)	倉吉西(普通) 鳥取中央育英(普通)	米子(総合) 米子南(専門)	6
5	鳥取商業(専門) 鳥取湖陵(専門)	倉吉東(普通) 倉吉総合産業(専門)	米子工業(専門) 境(普通) 境総合技術(専門)	7
6				0
7	八頭(普通)			1
8	鳥取東(普通) 鳥取西(普通)		米子東(普通) 米子西(普通)	4
合計	普通:4校26学級 専門:4校17学級 総合:1校4学級	普通:3校13学級 専門:2校8学級	普通:3校21学級 専門:3校14学級 総合:2校7学級	22校 110学級

1校当たり平均5.0学級

<令和4年度>

学級数	東部地区	中部地区	西部地区	学校数
2			日野(総合)	1
3	青谷(総合) 岩美(普通) 智頭農林(専門)	倉吉西(普通) 倉吉農業(専門)		5
4	鳥取商業(専門) 鳥取工業(専門)	倉吉総合産業(専門) 鳥取中央育英(普通)	米子(総合) 米子南(専門)	6
5	鳥取湖陵(専門)	倉吉東(普通)	米子工業(専門) 境(普通) 境港総合技術(専門)	5
6	八頭(普通)			1
7	鳥取東(普通) 鳥取西(普通)		米子東(普通) 米子西(普通)	4
8				
合計	普通:4校23学級 専門:4校16学級 総合:1校3学級	普通:3校12学級 専門:2校7学級	普通:3校19学級 専門:3校14学級 総合:2校6学級	22校 100学級

1校当たり平均4.5学級

(参考)

入学年次	平成24年度	令和4年度(見込)	差引
県内中学校卒業生数	5,677名	4,951名	▲726名

県立全日制高等学校募集学級規模別一覧（平成24年度と令和4年度の比較）

<平成24年度>

学級数	東部地区	中部地区	西部地区	学校数
2				0
3	岩美(普通) 智頭農林(専門)	倉吉農業(専門)	日野(総合)	4
4	鳥取工業(専門) 青谷(総合)	倉吉西(普通) 鳥取中央育英(普通)	米子(総合) 米子南(専門)	6
5	鳥取商業(専門) 鳥取湖陵(専門)	倉吉東(普通) 倉吉総合産業(専門)	米子工業(専門) 境(普通) 境総合技術(専門)	7
6				0
7	八頭(普通)			1
8	鳥取東(普通) 鳥取西(普通)		米子東(普通) 米子西(普通)	4
合計	普通:4校26学級 専門:4校17学級 総合:1校4学級	普通:3校13学級 専門:2校8学級	普通:3校21学級 専門:3校14学級 総合:2校7学級	22校 110学級

1校当たり平均5.0学級

<令和4年度>

学級数	東部地区	中部地区	西部地区	学校数
2			日野(総合)	1
3	青谷(総合) 岩美(普通) 智頭農林(専門)	倉吉西(普通) 倉吉農業(専門)		5
4	鳥取商業(専門) 鳥取工業(専門)	倉吉総合産業(専門) 鳥取中央育英(普通)	米子(総合) 米子南(専門)	6
5	鳥取湖陵(専門)	倉吉東(普通)	米子工業(専門) 境(普通) 境港総合技術(専門)	5
6	八頭(普通)			1
7	鳥取東(普通) 鳥取西(普通)		米子東(普通) 米子西(普通)	4
8				
合計	普通:4校23学級 専門:4校16学級 総合:1校3学級	普通:3校12学級 専門:2校7学級	普通:3校19学級 専門:3校14学級 総合:2校6学級	22校 100学級

1校当たり平均4.5学級

(参考)

入学年次	平成24年度	令和4年度(見込)	差引
県内中学校卒業生数	5,677名	4,951名	▲726名